

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(60歳代女性)あり、症状は発熱・菌血症などです。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は63例となりました。
- ・ 梅毒の報告が2例(20歳代男性及び30歳代女性)あり、ともに感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は64例となりました。
- ・ インフルエンザは、例年12月頃から流行が始まります。現状では京都市で流行の兆しは見られませんが、流行に備えて予防を心がけましょう。予防策としては、手洗い、うがいなどの一般的な衛生行動が重要です。また、ワクチン接種も一定の予防効果があります。接種の詳細はかかりつけの医療機関に御相談ください。

京都市衛生環境研究所ではインフルエンザの発生状況をグラフや地図で公表しています。

○インフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

また、インフルエンザや手洗い方法のリーフレットを発行しています。リーフレットは下記ホームページを御覧ください。

○「手洗いの方法」リーフレットは、「こどもに多い感染症について」のページ内にリンクがあります(衛生環境研究所)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000197526.html>

○こどもの感染症リーフレット「インフルエンザ」(衛生環境研究所)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/influenza.pdf>

◆ 今週のトピックス: <梅毒>

京都市の梅毒は第46週に2例の報告があり、本年の累積報告数は64例(男性33例、女性31例)となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 9例(肺結核 4例, 肺外結核 1例, 潜在性結核感染者 4例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 293例(肺結核 134例, その他結核 67例, 潜在性結核感染者 92例)うち喀痰塗抹陽性 67例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 63例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 64例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 19	13
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6. 19	266
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1. 72	74
	③ 手足口病	0. 49	21
	④ 水痘	0. 37	16
	⑤ 咽頭結膜熱	0. 33	14
	⑤ 突発性発しん	0. 33	14
眼科	流行性角結膜炎	0. 40	4

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <梅毒>

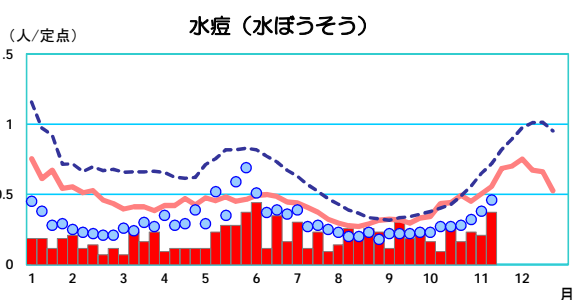
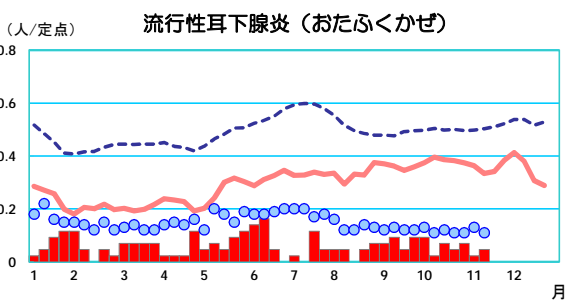
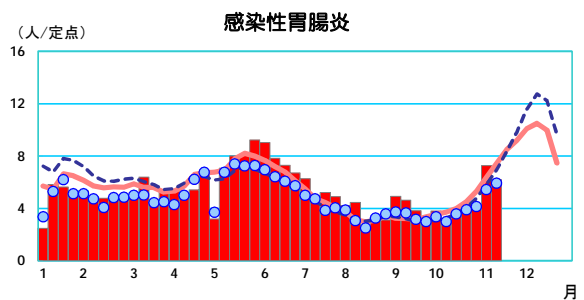
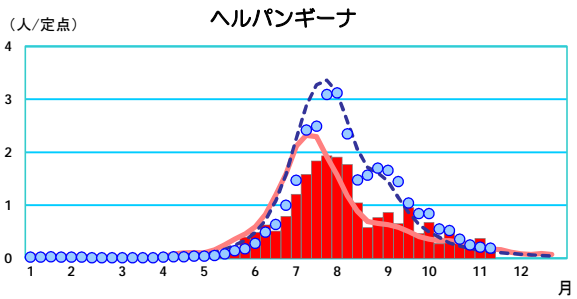
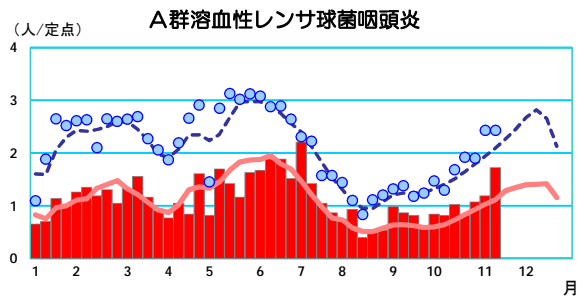
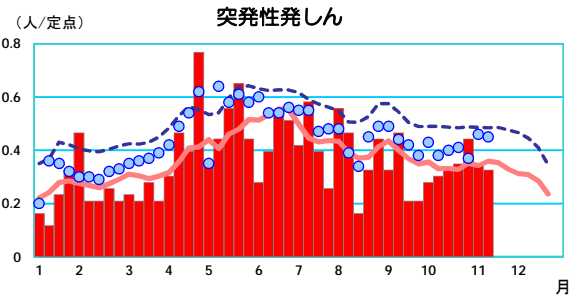
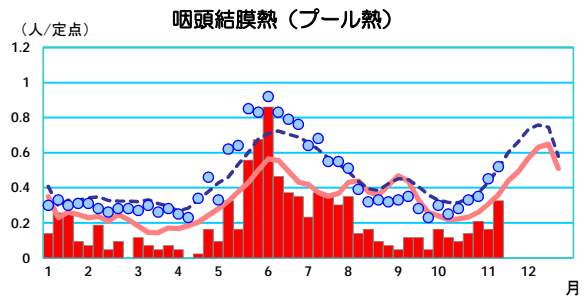
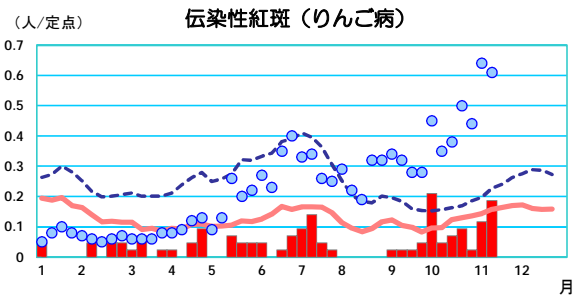
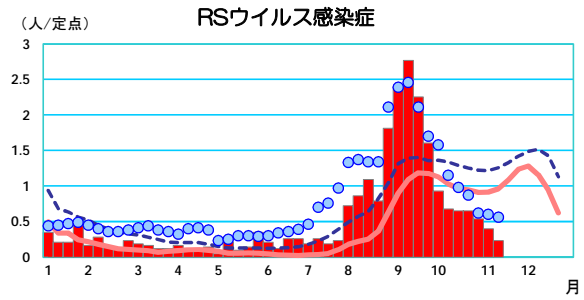
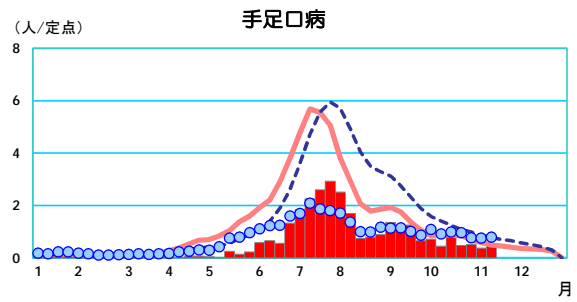
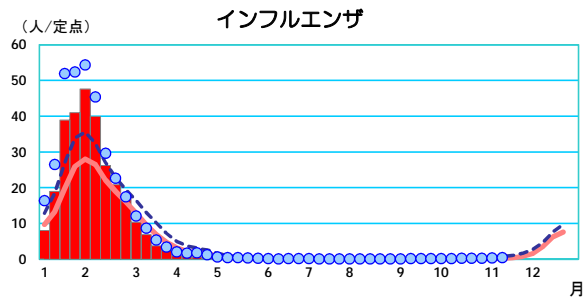
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成30年11月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第46週(11月12日～11月19日)トピックス: <梅毒>

■京都市及び全国の発生動向

京都市の梅毒は第46週に2例の報告があり、本年の累積報告数は64例(男性33例、女性31例)となりました(図1)。全国の累積報告数は6,096例となり、既に昨年1年間の5,820例を上回り、過去5年間で最も報告数が多くなりました(図2)。梅毒の報告数は年々増加の一途をたどっており、特に若齢女性の増加が顕著であり、本年の全国の報告数を年齢階級別・男女別に見ると、10歳代と20歳代では女性が男性を上回っています(図3)。一方、本市の患者の感染経路割合の推移を見ると、報告数が増加し始めた平成27年以降、異性間交渉の割合が50%を超えており(図4)、全体の患者数及び女性の割合の増加の原因となっています。ちなみに患者急増の背景には、海外との人の往来を含めて、不特定多数との性行為の増加があるとも考えられています。

■症状

梅毒は、梅毒トレポネーマという細菌による感染症です。感染者の患部に含まれる梅毒トレポネーマが、主に性的接触により粘膜や皮膚の小さな傷から侵入し感染します。初期症状では陰部、口唇、口腔内にしこりができますが、無治療でも症状が消失するため、見逃してしまうことも多く、感染を自覚しないまま相手に移してしまい、蔓延の原因となります。数年から数十年の長期間の潜伏の後、晩期まで梅毒を放置していると心臓、血管、脳など複数の臓器に病変が生じ、死に至ることもあります。また、妊婦が患者の場合、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、奇形が起こることがある先天梅毒も患者の増加とともに年々報告数が増えています(図5)。コンドームを使用する等で予防するとともに、皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

○厚生労働省「梅毒に関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。

○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

図1 京都市の報告数の推移(平成25年～30年46週まで)

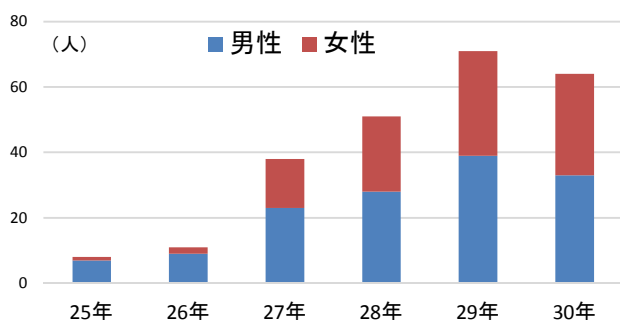


図2 全国の報告数の推移(平成25年～30年46週)

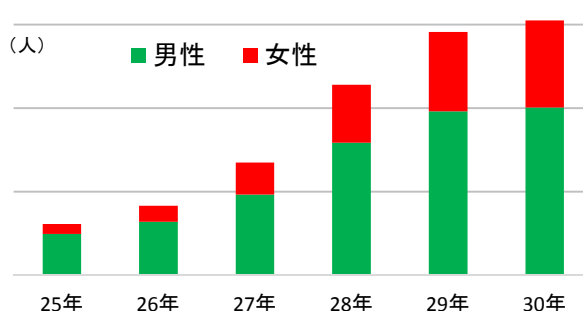


図3 全国の年齢階級別・男女別の報告数(本年1週～46週)

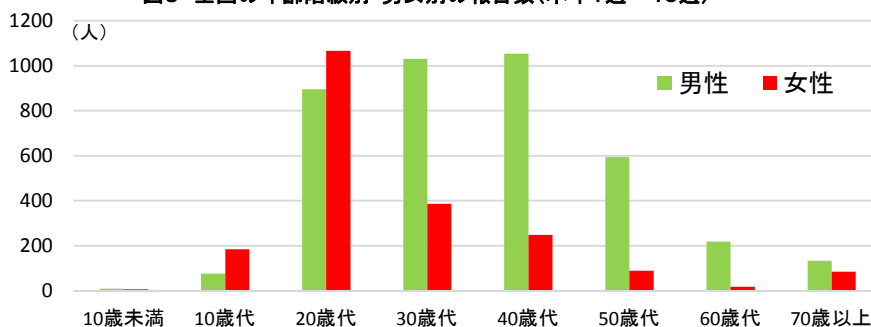


図4 京都市の患者の感染経路の割合(平成25年～30年46週)

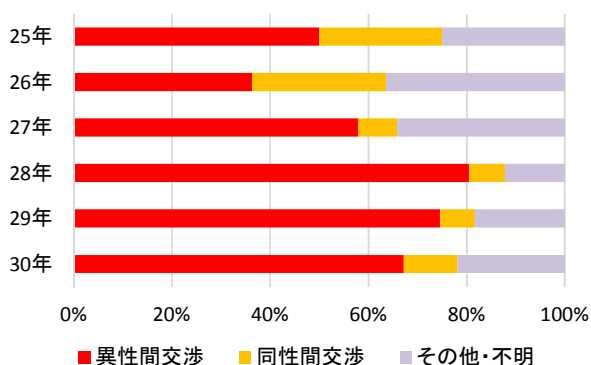
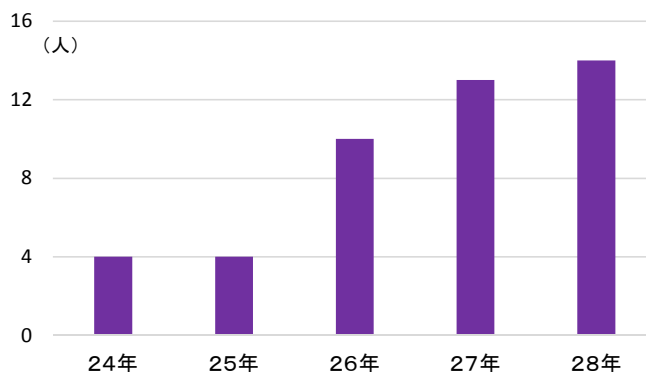


図5 全国の先天梅毒報告数(平成24年～28年)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第46週

疾病,行政区別報告数

平成30年11月12日～平成30年11月18日

データ入手日:平成30年11月21日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
上京	3	-	-	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	5	15	84	7	4	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	4	1	1	14	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	2	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	1	-	-	3	1	2	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	5	19	-	5	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	6	5	3	17	51	3	4	1	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-
伏見	1	-	-	19	52	1	5	3	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-
西京	2	1	5	7	25	1	-	3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
京都市計	13	10	14	74	266	16	21	8	14	7	2	-	4	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	0.25	0.25	0.25	-	0.25	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	0.25	0.25	0.25	-	0.25	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
上京	0.60	-	-	1.67	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	1.25	3.75	21.00	1.75	1.00	-	0.50	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	1.33	0.33	0.33	4.67	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	1.00	8.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	0.14	-	-	0.60	0.20	0.40	0.40	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	1.50	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1.67	6.33	-	1.67	0.33	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	0.75	1.00	0.60	3.40	10.20	0.60	0.80	0.20	0.40	0.40	-	-	2.00	-	-	-	-	-
伏見	0.09	-	-	2.71	7.43	0.14	0.71	0.43	0.86	0.14	0.14	-	-	-	-	-	-	-
西京	0.25	0.20	1.00	1.40	5.00	0.20	-	0.60	0.20	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
京都市計	0.19	0.23	0.33	1.72	6.19	0.37	0.49	0.19	0.33	0.16	0.05	-	0.40	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第46週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年11月12日～平成30年11月18日

データ入手日:平成30年11月21日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	13	-	-	-	-	3	1	1	-	1	1	-	2	-	-	1	3	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	10	3	2	2	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		14	-	2	1	1	2	3	1	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		74	-	1	-	2	6	10	6	11	11	10	4	11	-	2	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		266	4	14	32	29	28	29	26	17	14	12	9	22	9	21	-	-	-	-	-	
水痘		16	-	1	-	2	1	-	1	2	5	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		21	1	2	1	6	4	-	3	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		8	-	-	-	-	3	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		14	-	5	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		7	-	1	1	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
流行性角結膜炎	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-		
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.19	-	-	-	-	0.04	0.01	0.01	-	0.01	0.01	-	0.03	-	-	0.01	0.04	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.23	0.07	0.05	0.05	0.02	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.33	-	0.05	0.02	0.02	0.05	0.07	0.02	0.02	0.02	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.72	-	0.02	-	0.05	0.14	0.23	0.14	0.26	0.26	0.23	0.09	0.26	-	0.05	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		6.19	0.09	0.33	0.74	0.67	0.65	0.67	0.60	0.40	0.33	0.28	0.21	0.51	0.21	0.49	-	-	-	-	-	
水痘		0.37	-	0.02	-	0.05	0.02	-	0.02	0.05	0.12	0.07	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		0.49	0.02	0.05	0.02	0.14	0.09	-	0.07	0.05	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		0.19	-	-	-	-	0.07	0.02	0.05	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		0.33	-	0.12	0.19	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		0.16	-	0.02	0.02	-	0.05	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
流行性角結膜炎	0.40	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	0.20	-	-		
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第46週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年11月21日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	2	11	2	4	13	13
RSウイルス感染症	29	28	28	23	17	10
咽頭結膜熱	5	4	6	9	7	14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	44	35	46	51	74
感染性胃腸炎	126	167	186	175	313	266
水痘	4	12	7	10	9	16
手足口病	19	42	20	22	16	21
伝染性紅斑	2	3	4	1	5	8
突発性発しん	13	14	15	19	15	14
ヘルパンギーナ	12	21	16	8	16	7
流行性耳下腺炎	1	3	2	3	1	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	7	8	6	4	4
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	253	356	329	326	467	449

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.03	0.16	0.03	0.06	0.19	0.19
RSウイルス感染症	0.67	0.65	0.65	0.53	0.40	0.23
咽頭結膜熱	0.12	0.09	0.14	0.21	0.16	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.81	1.02	0.81	1.07	1.19	1.72
感染性胃腸炎	2.93	3.88	4.33	4.07	7.28	6.19
水痘	0.09	0.28	0.16	0.23	0.21	0.37
手足口病	0.44	0.98	0.47	0.51	0.37	0.49
伝染性紅斑	0.05	0.07	0.09	0.02	0.12	0.19
突発性発しん	0.30	0.33	0.35	0.44	0.35	0.33
ヘルパンギーナ	0.28	0.49	0.37	0.19	0.37	0.16
流行性耳下腺炎	0.02	0.07	0.05	0.07	0.02	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.50	0.70	0.80	0.60	0.40	0.40
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	6.25	8.72	8.25	8.01	11.05	10.63

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。